令和６年度　静岡県立科学技術高等学校第１回学校運営協議会議事録(案)

開催日時	令和６年６月24日（月）午前10時00分から正午まで
開催場所	静岡県立科学技術高等学校　第３会議室
委員	追分　敏則（長沼２区町内　会長） 佐藤　克彦（いなば食品株式会社　静岡業務部部長） 永井　真千子（元本校ＰＴＡ副会長、元本校後援会理事） 平井　康正（本校卒業生保護者） 増田　　一（静岡科学館「る・く・る」次長） 三倉　和彦（静岡県発明協会　事務局長） 室伏　春樹（静岡大学教育学部　講師）　（五十音順）
学校	小野　　聡　校長　　田中　　学　副校長 今野　由季子　教頭　　長田　正文　教頭　　鈴木　章司　事務長
傍聴者	なし
協議資料	令和６年度科学技術高等学校　第１回学校運営協議会～全日制資料～ 令和６年度科学技術高等学校　第１回学校運営協議会～定時制資料～ 静岡県立高校・特別支援学校における学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）導入の手引き＜概要版＞ 静岡県立科学技術高等学校　卒業生からのメッセージ 静岡県立科学技術高校　在校生＆卒業生の保護者のみなさんからのメッセージ
備考	

１　開会

田中副校長が、開会を宣言した。

２　校長挨拶

この学校運営協議会は、地域や家庭、企業など関係団体の皆様から、学校運営に関する基本方針や、より良い人材の確保に向けた御意見をいただく「協議の場」です。忌憚のない御意見をよろしくお願いします。

また本年度は、ここにお集まりの７人の皆様に委員をお願いしております。

３　委員紹介、挨拶

出席委員が、一人ずつ自己紹介、挨拶した。

追分　敏則　委員（長沼２区町内　会長）

今年度から町内会長をやることになった。科学技術高校の評議員も大切な仕事の一つであり、一生懸命やりたい。

佐藤　克彦　委員（いなば食品株式会社　静岡業務部部長）

５月27日付で静岡の業務部に着任したばかりである。皆さんに教えていただきなが

ら、お手伝いしたい。

永井　真千子　委員（元本校ＰＴＡ　副会長、元本校後援会　理事）

娘と息子が卒業生である。保護者の目線で役に立ちたい。

平井　康正　委員（本校卒業生　保護者）

息子が昨年度、定時制の課程で卒業した。よろしくお願いします。

増田　一　委員（静岡科学館「る・く・る」次長・元千代田東小学校長）

る・く・るにも是非お立ち寄りください。

三倉　和彦　委員（静岡県発明協会　事務局長）

県教委では、鈴木事務長と同僚で、科学技術高校が更地だった頃にどのように校舎を配置するかなど近隣の皆さんと話し合った。

室伏　春樹　委員（静岡大学教育学部　講師）

専門は教科教育学、特に技術教育学で教員養成に従事している。私自身工業高校の出身であり、現在、沼津工業高校でも学校運営協議会の委員を務めている。

4　会長、副会長選出

小野校長「静岡県立学校運営協議会の設置等に関する規則」第14条の規定により会長、副会長各１名は委員の互選によるものとする。

追分委員　会長については、千代田東小学校で校長を歴任され、現在、静岡科学館次長を務められる、教育全般に詳しい増田さんがよろしいかと思う。また、昨年度は学校評議員を務め、学校の様子もよく御存じの三倉さんが副会長でいかがか。

この発言を受け、全員異議なしで会長、副会長を選出した。

5　議事

最初に増田会長が、本協議会は原則公開とし、希望者がいれば必要な手続きに沿って傍聴ができるものとなっていることを説明した。

次に、「令和６年度学校経営計画」の「学校教育活動への取組み状況報告」について事務局に説明を求めた。

全日制については小野校長が、学校紹介ビデオと協議資料を使って説明し、定時制については長田教頭が協議資料を使って説明した。

【全日制】　５分間の紹介ビデオの上映（行事、学科について校長が説明した）

・本校のスクールミッション、グラデュエ―ション・ポリシー

・本年度の取り組み

日々の学習習慣を定着させる/個々の生徒のニーズに対応した進路指導体制を確立する/探究的な教育活動を推進する/グローバル化への対応と、国際理解教育を推進する。

・進路希望は進学：就職が６：４であり、コロナ前を含めて過去最高の求人倍率となっている。また、都市基盤工学科では静岡市役所に５人採用された。

・地域連携の取り組みを進めている。生徒のボランティアの応募が多く、夏祭りには50人、千代田小学校の夏まつりに23人、静岡マラソン70人応募があった。

・広報を充実する。工業を学んでいる生徒本人や保護者の方でも工業高校の特徴がよく理解できていないことがある。このため、校長としてHPの充実に力を入れている。１月には閲覧者数400万人を超えた。
・パンフレットもリニューアルし、卒業生や進路先でどのように活躍しているかが分かるようにした。

【定時制課程】　長田教頭が資料を示しながら説明した。
・スクールミッション　本校は中部唯一の定時制工業高校である。
・スクールポリシーについて　重点目標はゴシック体で表示している。
・カリキュラムマネジメントの推進（３年生までが新教育課程になった）。
・基本的生活習慣を定着させる（本校生徒の1/3は中学校時不登校。退学者は０）。
・就業意欲を向上させる（三修制への参加を勧めている。昨年は２名の生徒が三修制で卒業）。
・生徒会活動及び部活動を活性化させる（生活体験発表会には一昨年、全国大会一位　昨年は県大会５位、今年度バドミントン部が全国大会出場予定）。
・特別支援教育体制を確立する（正社員生徒の在籍はなく、不登校経験者が多い。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカと連携して、生徒に合った教育を行っている）。
・教職員の資質、能力の向上を支援する（視覚に訴え、学習に興味を持たせる授業づくりを行う）。

増田会長：続けて、事務局から学校教育活動への取組状況について説明をお願いしたい。

田中副校長
・10頁：志願倍率の推移　県内の公立高校の志願者数は年々減少傾向にある中、本校の大学科の志願倍率は１倍を切らずに推移している。一方で、小学科別志願者倍率については、１倍を切った学科もあり、この対応は今後の急務である。理数科は８割超が国公立大学に進学し、工業科は進学が６割、就職が４割である。
・12頁：工業系高校の国公立大学合格者統計（全国工業校長協会作成）によると、静岡県は全国第一位である。一方、高校別では本校は全国第二位の実績である。
・11頁：昨年度と今年度の新入生が本校に進学を決めた理由を示している。昨年度よりは、就職の実績が重視された傾向が見える。
＜教務課説明＞
・14頁：教務課の特徴的な取り組みとして、教養力テストがある。社会人として、正しい判断をするための礎となる知恵と知識を身に付けさせるということ、家庭での学習習慣をつけさせることを目的としている。
＜生徒課説明＞
・15頁：昨年度は生徒指導案件は０件だったが、交通事故件数が14件と少し多かった。

＜進路課説明＞

・16 から 19 頁

理数科では、本校では初めて医学部医学科に進学した生徒が出た。また昨年の卒業生が名古屋大学に進学後、東京大学に改めて進学した。

6　質疑応答

増田会長：御意見や御質問はありますか。

佐藤委員：15 頁の交通事故件数の 14 件は、被害事故か。件数を減らすには、本人の自覚以外に何かあるか。

田中副校長：朝の街頭指導として、長沼の踏切など、校外での交通指導も行っている。

追分委員：科学技術高校に限らないが、イヤホンをして自転車に乗っている高校生が大変多い。愛宕霊園や、護国神社付近では、一時停止不履行など危険な運転も見かける。どのように生徒に自覚させるかは難しい。

田中副校長：入学直後の 4 月に交通安全集会を開いて、生徒に注意喚起をしているが、イヤホンを使わないことの徹底は難しい部分がある。

佐藤委員：県内でも死亡事故があった。死亡事故が起きた後に厳しくされるのではなく、いま厳しく指導した方が良い。

追分委員：自転車も加害者になる。この辺りは老人も多い。いったん加害者になった時に、保護者も本人もどれだけ大きな責任を負うことになるのかを生徒・保護者に理解させてほしい。

佐藤委員：自転車通学の生徒はどのくらいいるか？14 人が占める割合はどの程度か。

田中副校長：421 人が自転車通学で、317 人が電車と自転車を併用している。

三倉副会長：静鉄から科学技術高校に登校する道は狭いが、動線を知りたい。

今野教頭：通常は狭い東側側道を歩くことが多い。イベント等で交通が集中する場合には、西側（歩道側）に誘導している。

追分委員：道が狭いことは、問題だ。バンダイには年間 20 万人の来客があり、新たにアリーナができると更に人が増える。ペデストリアンデッキを作り、静鉄も新駅をセノバ側に作ってほしいと静岡市などに要求しているところだ。

増田会長：人が集まり、工場もでき、それが大きくなることは目に見えている。それに対して先手を打つことは重要だ。

追分委員：ＪＲから学校に来る道も狭く、排水が悪いため雨量の多い時は靴が濡れる。静岡市には改良の要望を出している。

小野校長：課題研究で、生徒がこのあたりの地域づくり、未来づくりをしている。最終的には静岡市に提案することも考えている。

追分委員：ぜひ、生徒から提案してもらいたい。

小野校長：みんなにとって暮らしやすい街づくりをめざし、この地域の交通の問題を改良したい。若者が描く街づくりを、都市基盤工学科の生徒がやっている。

増田会長：生徒の意見は、重みが非常に大きいと思う。是非お願いしたい。

室伏委員：自転車通学の許可の条件として、保険やヘルメットの指導はあるか？
田中副校長：保険加入は悉皆だが、ヘルメットは努力義務で、条件ではない。
室伏委員：それは学校で入っている保険とは別で、各家庭の加入か。
田中副校長：はい。
室伏委員：定時制では、３頁に「特別支援教育を推進する」とあるが、全日制の方には載っていないが、その理由を知りたい。また、定時制では「学校に信頼する生徒がいると答える生徒が 70%」とあるが、これも全日制で載っていない。このような違いについて知りたい。
田中副校長：全日制にも特別支援体制については教育相談課という分掌が担当している。各クラスに２，３人くらいは支援が必要な生徒がおり、この分掌を中心に担任、教科担当のみならず、学年、関係部署を中心にチームで対応する体制をとっている。全日制の資料の８頁のエの特別支援体制のところにも「困り感のある生徒を早期に発見し、保健室、教育相談課、学年等が連携した支援を行う。」と記載がある。
室伏委員：全日制では「学校に信頼できる先生方がいる」という目標は不要か？
小野校長：特に、定時制ではいろいろな事情を抱えている生徒が多いという背景がある。全日制でも年度末に実施するアンケートの項目には入っている。
増田会長：全日制では、特別支援体制があり、定時制ではアルバイトをしている生徒もいるということが分かった。小中学校でも話題になっている個別最適化学習が、高等学校でもさらに大切になっていくと思う。
佐藤委員：全日制では９頁、定時制では３頁に当たるところで、コンプライアンス、メンタルヘルスについて伺いたい。定時制は実施１回以上、全日制の方は随時とのことだが、具体的に知りたい。
田中副校長：全日制では、コンプライアンスに関しては、県教委から毎月一回発行されるコンプライアンス通信を、朝の打ち合わせや職員会議などで紹介している。メンタルヘルスについては、心の病を抱える教職員についても対応が必要である。若い人をサポートしたり、個別に対応したり、検討できる体制を作っている。
追分委員：これは教職員向けのメンタルヘルスか？
田中副校長：はい。
追分委員：生徒向けのものは別にあるか。
田中副校長：先に紹介した、教育相談がそれにあたる。
長田教頭：定時制では、コンプライアンスに関しては、コンプライアンス通信を 15 名の職員に印刷配付している。小人数の職場であるため、できるだけ小さなことから、何か困ったことはないかとか、手伝えることはないかといった声掛けから、良い雰囲気の職場づくりができていると思う。
増田会長：生徒だけでなく先生方のメンタルヘルスも大事であり、校長先生にもご配慮いただいていると推察する。事務局には、本日の意見を是非、今後の学校運営に活かしてほしい。

7　議決

増田会長：令和６年度学校経営計画については、委員から他に意見がなければ、これを承認したい。

全員　異議なし

8　諸連絡

次回の協議会の予定は、令和６年 10 月 26 日（土）（本校文化祭公開日）とする。

9　授業参観

学校職員の誘導により委員が、４時間目の授業を参観した。

10　閉会

副校長が、閉会を宣言した。

次回の日程	
日　　時	令和６年 10 月 26 日（土）
会　　場	本校